

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10572003				
授業名	人間の心理と行動 C	形態	講義	単位	2
担当教員	蔵 琢也				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	水曜4限		
授業目的	人間の心理と行動Cは、現在の心理学や行動科学の概観し、人間の心理と行動について、大まかな理解ができるようになることを目標とする。				
授業内容	初めに心理学の基本的なことから、歴史、主な理論の考え方などを学ぶ。つづいて人格、成長、社会などに関係する個別テーマを紹介する。さらに現在の心理学に欠かせなくなりつつある脳、遺伝子、ホルモンや神経伝達物質などの知識も紹介する。また、介護に関係の深い発達障害、老年期の話題などにも触れる。				
到達目標	心理学と人間行動について、現在の心理学や科学が到達した知見の概略を理解し、その視点から自らの周りの現実世界を考察・分析し、さらに応用できることを目標とする。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	アクティブラーニングの手法を取り入れ、心理学や行動科学をまったく知らない学生にも分かりやすいように、パワーポイントを使い、写真や図表を示して解説を加える講義形式をとる。資料も適時配布する。またビデオも積極的に用い、前後に解説を加え理解を深めてもらう。さらに講義内容を毎週短くまとめ、さらに講義内容に関する事柄を、学生が知っている現実、あるいは仮想の人物や登場人物に当てはめて考察するレポートを課す。 なお、行事や出張等が予定されているので、講義の内容が前後することがあるが、それについてはできる限り事前に授業内で通告する。事前に予告した授業内小テストを行う。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	特に指定しない。各授業の参考文献を参照のこと。				
評価方法	事前・事後学習レポートと、授業の後半に授業内試験、最終講義にリアクションペーパー課し、これらの結果により評価する。（レポート6割、授業内小テスト3割、リアクション・ペーパー等1割）				
評価基準	レポート30点、テスト60点、最終講義でのリアクションペーパー10点の割合で評価する。しかしこれらの結果が、成績の評価の境界付近の場合、授業態度や協力を勘案する場合もある。また公欠・病欠等、そして心身のハンディキャップ等も考慮する。				
試験・レポート等のフィードバック	必要に応じて、後の授業内で解説を加える。さらに適時講評を行い、個々の質問を受け付ける。また、テストやレポートの点数等の全体的な分布開示を行う。個々人の具体的な点数に関しては、要望があれば、プライバシーやテストの運用上に支障がない限り、応じる。				
注意事項及び履修条件	特になし 各種の障害等の特別な事情については、申告があれば考慮する。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	シラバスを読み、2時間程度、心理学や人間行動の簡単なアウトラインや例などを調べておく。
授業内容	オリエンテーション 1) 心理学について20世紀と21世紀の自然科学、及び社会科学のなかでの位置づけを概説する。 2) 講義のシステムと進め方を説明する。 3) 以後の内容の概説をする。 4) 最近とみに理解が深まった話題として、男性ホルモンと体や心理の関係の話をする。
事後学習	心理学と行動科学が、何を対象としたものかと、その位置づけについて、2時間程度、復習しておく。
参考文献	『脳とホルモンの行動学：行動神経内分泌学への招待』近藤保彦 編 西村書店 2010 『脳のホルモン：前頭葉をめぐる』伊藤真次 朝倉書店 1993
第2回	
事前学習	一時間程度、前回の授業を復習し、愛情や感情についての「常識」とのギャップについて考えておく。
授業内容	脳と感情、ホルモン 前回の話題の続きとして、ホルモンと感情、関係する脳の部分などを解説し、補足することにする。
事後学習	3時間程度かけて、今回学んだ事柄を復習し、その日常生活における意味を考えてみる。第三回から、配布レポート用紙が配布されるので、講義の内容や感想等を記録しておく。
参考文献	『脳とホルモンの行動学：行動神経内分泌学への招待』近藤保彦 編 西村書店 2010 『脳のホルモン：前頭葉をめぐる』伊藤真次 朝倉書店 1993
第3回	
事前学習	2時間以上、遺伝と環境について、ネットや図書館で調べておく。また、自分なりに様々な才能の

個人差の由来について考えておく。

授業内容	遺伝と環境 1 (双子研究) 遺伝は生物学的な親から受け継いだ性質であり、環境は生育後の世界の状況の総体である。遺伝と環境の問題は「氏が育ち」かの問題として、多くの研究と論争を生んできた。これについて 21 世紀の現代的立場から論じる。
事後学習	比較的均質になった現在社会では、もっとも大きく目に見える環境効果は生まれ月と学区区切りの効果である。これについて、今日学んだことを復習し、よく考えてみる。さらに三時間程度かけて、配布されたレポート用紙に、今までの授業の感想を書きこむ。
参考文献	『行動遺伝学入門：動物とヒトの"こころ"の科学』小出剛, 山元大輔 編著 裳華房 2011 『知能心理学研究』安藤公平 福村出版 1977

第 4 回

事前学習	一時間以上かけて、赤ん坊から老人に至る人間の人生の変化について、知的機能や考え方を中心に心理学的に見渡してみる。題材は周囲にありふれているので、何か年齢によって異なったように見える変化を中心に注目して、問題点を持っておく。
授業内容	脳、記憶、言語の発達 人間は年齢によって外見のみならず、精神も変化する。本講義では発達心理学の概略を、極めて簡潔に紹介する。外見については、以前の講義で述べたので、主に知的機能の側面を、それも発達心理学では余り取り上げられない、脳科学や計算論に関係した部分を強調して講義する。参考のために関連したビデオを見る。
事後学習	二時間程度をかけて、授業で学んだことを、現実の場面と絡めて復習してみる。とりわけ年少の人が身近にいる場合は、大人との様々な違いを注意深く観察してみる、一時間をかけて感想を所定レポート用紙に書く。
参考文献	『脳の進化』ジョン・エックルス 培風館 1998 『認知心理学の新展開—言語と記憶』川崎恵里子 ナカニシヤ書店 2012

第 5 回

事前学習	誰も、この世に生まれてのち幼年期をへて青年期に至る。その心と行動も、成長にともなって変化してくるのである。自分、または身近な人々をよく思い出して、その考えや行動パターンの変化を、2 時間程度かけて、幾つか考えておく。
授業内容	発達・幼年期・生き残り 人間は成長と共に、体と生理機能だけではなく、心理の諸特徴も変化してゆく。それを扱うのが発達心理学である。本講義では、幼年期から青年期にいたる発達を、成長の生物学理論、心理学、行動学、そして成長についての進化理論などを総合して概説する。とりわけ、自然界、そして過去の社会で重要であった幼年期の生き残り戦略の重要性は特記すべきものである。
事後学習	本講義の内容は、多くの知見と多くの深い理論と関係しており、本来なら半年や一年を通じて講義するレベルの事柄である。本講義で論じたことで興味を持ったことを、3 時間程度、関連資料で調べ、感想を書く。
参考文献	『生涯発達心理学入門』村田孝次 培風館 1998 『図でわかる発達心理学』新井邦二郎 福村出版 1997

第 6 回

事前学習	生物としての人間は十億年を超える歳月を経て進化してきた存在である。動物界での人間の位置を、ネットや図書館で 1 時間程度、調べて、ざっと理解しておく。
授業内容	進化(系統発生)と発達(個体発生)、「顔」の構造 人間は生物の一種であり、人間に近い動物と体の脳神経系の基本は同じである。そこで人間に至る進化の概略を、脳神経系と想定される心理について概説する。また、ヘッケルの系統発生が個体発生を繰り返すという古典的学説に基づいて個体発生(人間の成長)を論じる。これは受精卵から複雑な体や脳神経系がどのように発生させるかという問題と関係しており、人間の出生後の成長とも関連している。その中でも顔は、動物の社会的な交流の中心の一つであり、詳しく解説する。
事後学習	2 時間程度をかけて、今回学習したことを思い起こし、身近な、あるいは良く知っている動物の体と心理について応用してみる。感想は配布レポート用紙に書く。 また、レポート課題として選んだ作品を、入手して、この授業を踏まえたうえで再び見る(1 時間以上)。
参考文献	『生涯発達心理学入門』村田孝次 培風館 1998 『脊椎動物の歴史』A.S.ローマー どうぶつ社 1981

第 7 回

事前学習	一時間以上かけて、日常生活において出会う感情と表情について考え、ネットや図書館で調べて興味と問題意識を持っておく。また、講義の事前 PDF が公開されているので、それを見ておく。
授業内容	感情と表情 感情と表情は古い動物由来の歴史の長い心理である。これについて、進化、人体や脳の仕組みを含めて総合的に学ぶ。また印象などの形成についても触れる。
事後学習	授業で学んだ表情や感情は日常的に最も使う心理機構の一つであるので、それを 1 時間程度、復習して日常場面で考察してみる。さらに課題として選んだ作品を 2 時間程度読んで、粗筋をレポートに書き込む。
参考文献	『知能心理学研究』安藤公平 福村出版 1977

第8回	
事前学習	1時間程度、講義の前半に学んだことを思い出す。そして、子供の愛玩刺激、性的な刺激等、「超正常の刺激」についてネットや文献で学んでおく。
授業内容	超正常の刺激、予備回 超正常の刺激とは、人間を含む動物において、常識的な範囲を超えた刺激ほど好まれる現象である。これは人間社会、とりわけ人造物が多くなった現代社会では強く表れている。これに関する動物の簡単な実例と理論、人間社会での例を学ぶ。この回は講義の中間に当たり、様々な不測の事態に対処するための緩衝の回なので、内容が大きく変わる可能性がある。
事後学習	一時間以上、授業で学んだことを、現実の場面と絡めて復習してみる。とりわけ年少の人が身近にいる場合は、大人との様々な違いを注意深く観察してみる。 さらにレポートに課された作品の分析を、2時間程度かけて書き込む。
参考文献	『攻撃』 コンラート・ローレンツ みすず書房 1970 『美しさを巡る進化論』 蔵琢也 勁草書房 1997

第9回	
事前学習	1時間程度かけて、人間が日常使う知覚や感覚について簡単に思い浮かべ、その複雑さや仕組みを想像して考えておく。また、講義の事前PDFも見て、事前に予習しておく。
授業内容	感覚、知覚、認知と計算 動物や人間の五感である感覚と知覚、そしてそれと不可分な認知や計算論的な理解について、考えられるメカニズムを考えながら論じる。感覚や知覚については科学の初期から知覚については論じられてきており、概ね確立している。これについて神経や脳、情報処理と絡めながら概説する。
事後学習	2時間程度かけて、授業で学んだ事柄について、日常生活において考えてみる。さらに配布したレポートに感想を書きこむ。また、一時間程度かけてレポートの前半部分を完成させておく。
参考文献	『感覚知覚心理学』 菊地正 編 朝倉書店 2008

第10回	
事前学習	一時間程度かけて、日常で出会うそれぞれの人間の人格、正確、気質について、あらかじめ考えて、疑問点や問題点を想定しておく。また、講義の事前PDFも見て、事前に予習しておく。
授業内容	気質・人格・性格の理論（パーソナリティ1） 人間の人格、正確、気質の理論は、心理学の最初期から問題になっていた課題である。20世紀には様々な論考と実証、分類がなされた。それらについて、21世紀の現代に発達した脳神経科学の面から再評価して論じる。時間があれば分離脳についてのビデオを見る。
事後学習	2時間程度かけて、授業で学んだ事柄について、日常生活において考えてみる。さらに配布したレポートに感想を書きこむ。また、分析課題の2番目にする作品等の選定を1時間程度考えておく。
参考文献	『人格心理学』 G・W・オルポート 誠信書店 1968 『人格心理学-パーソナリティと心の構造』 鈴木乙史 佐々木正宏 河出書房新社 2006

第11回	
事前学習	一時間程度、前回学んだことを思い起こし、さらに無意識とはなにか、進んでフロイトの精神分析について調べておく。また、講義の事前PDFも見て、事前に予習しておく。
授業内容	無意識、精神分析、催眠術（パーソナリティ2） フロイトの精神分析は心理学史の上で画期的な理論であった。しかしその理論的な基盤は脆弱である。本講義では、先週の性格や人格の講義と関連付け、現代的な計算論や脳神経科学の視点から、精神分析や多重人格などを論じる。また、良くメカニズムが分かっているとは言えない催眠術についても触れる。
事後学習	2時間程度、授業で学んだ事柄について、日常生活において考えてみる。さらに配布したレポートに感想を書きこむ。また、分析課題の2番目にする作品等の選定を1時間程度、考えて厳選する。
参考文献	『精神分析入門』『夢判断』 ジグムンド・フロイト 新潮社 『新催眠の誘導技』 ジョージ・ガフナー、ソーニャ・ベンソン 誠信書房 2005

第12回	
事前学習	1時間程度、日本とアメリカの大衆文化の違いについて、ネットや図書を調べ、いくつかの興味を持った点に注目しておく。
授業内容	遺伝と環境2（世界の文化差） 人間は持って生まれたものだけでなく、その生まれ育った社会、とりわけ文化の影響も大きく受ける。それについて、日本とアメリカの文化差を中心に学んでいく。両者は被服や嗜好だけではなく、全体的に大きく違っている。それについて、様々なスライドなどを見て、具体的にかなり細かい部分まで論じる。
事後学習	2時間程度、本講義で学んだことを、身近で興味のある、あるいは良く知っている事柄に当てはめてみて、日本と欧米の違いを再認識しておく。また、一時間程度をかけて、レポートで課されている第二課題を何にするか決める。。
参考文献	『美しさを巡る進化論』 蔵琢也 勁草書房

第13回	
事前学習	生物としての人間は十億年を超える歳月を経て進化してきた存在である。一時間以上、動物界での

	人間の位置を、ネットや図書館で調べて、ざっと理解しておく。事前PDFも見ておく。
授業内容	進化（系統発生）と発達（個体発生） 人間は生物の一種であり、人間に近い動物と体の脳神経系の基本は同じである。そこで人間に至る進化の概略を、脳神経系と想定される心理について概説する。また、ヘッケルの系統発生が個体発生を繰り返すという古典的学説に基づいて個体発生（人間の成長）を論じる。これは受精卵から複雑な体や脳神経系がどのように発生させるかという問題と関係しており、人間の出生後の成長とも関連している。
事後学習	今回学習したことを思い起こし、身近な、あるいは良く知っている動物の体と心理について応用してみる。感想は配布レポート用紙に書く。さらに分析する第二の作品の粗筋を書き込む。合計三時間程度
参考文献	『生涯発達心理学入門』村田孝次 培風館 1998 『脊椎動物の歴史』A.S.ローマー どうぶつ社 1981

第14回	
事前学習	脳や遺伝子については現在の高校までの教育ではほぼ全く触れられないが、最近発見された話題は多いので、ネットや図書館で事前に調べ、興味を持っておく。この回は、総復習の講義に当たるので、3時間以上、配布、PDFをよく見て、今までのことを十分に復習しておく。
授業内容	脳神経系とホルモン、遺伝子 脳の細部と遺伝子の解読は、20世紀最後から現在にかけてもっとも進歩した科学分野の一つである。これを簡単に解説し、心理学と密接に関連したいくつかのトピックを取り上げて、紹介する。
事後学習	脳や遺伝子については今後ますます解明が進むことは確実である。今回の授業を思い起こして、今後について考えてみる。感想を所定のレポート用紙に書き込む。また、これまで書き込んだレポートを見直してみる。総計2時間程度。
参考文献	『脳とホルモンの行動学：行動神経内分泌学への招待』近藤保彦 編 西村書店 2010 『脳のホルモン：前頭葉をめぐって』伊藤真次 朝倉書店 1993

第15回	
事前学習	今回は最終講義なので、3時間程度、本講義で論じた今までの様々な話題を、復習しておく。また、配布レポートを完全に完成させる。
授業内容	総括と特論、人生のまとめ この講義で不足した部分、あるいは最近の話題などを論じる。また、今までの話題を総括して、心理学と行動科学、そして未来の社会とのかかわりについて展望する。また、最終授業なので、人間の人生の最後についても触れる。
事後学習	一時間程度をかけて、本講義全体を思い出し、この講義の重要だと考える点、新たな発見などを自分なりに総括しておく。
参考文献	『社会生物学』E.O.ウィルソン 思索社 1994 『解き明かされる脳の不思議：科学者が語る科学最前線：脳科学の未来』立花隆 クバプロ 2009

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-（1）> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-（2）> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（3）> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（4）> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--